

平成 3 1 年度 学校経営方針

1 生徒・職員の実態

<生徒の強み>

- 落ち着いており、明るく素直で礼儀正しい生徒が多い。
- 決められたことを当たり前でできる生徒が多い。
(登下校の時間、きちんとした身なり、チャイム学習)
- 行事(大榎祭)、部活動への取組がよい。
- 話を聴く態度が身につけている。(集会・授業等)
- あいさつ、清掃(黙働清掃)係活動等がきちんとできる生徒が多い。

<生徒の課題>

- ・指示されたことはよく動くが、自ら積極的に行動する力や挑戦する力。
- ・恵まれた家庭・手厚い地域に育った生徒が多く、依存しがちな面がある。
- ・限られた狭い人間関係で、新たな人間関係づくりが苦手な生徒もいる。
- ・学習意欲は向上しているが、高い志や目標をもつに至っていない。
- ・最後までやり抜くこと、ふんばることの強さはこれからである。
- ・学習内容の定着に課題がある。

<教職員の強み>

- 誠実に教育活動に取り組む職員が多い。
- お互いに助け合う仲間意識や同僚性が高い。
- 生徒との距離が近く、何でも話せる職員が多い。
- フットワークが軽く、よく動く職員が多い。

<教職員の育成ポイント>

- ・社会人としてや教育公務員として県民の模範となる言動。
- ・人間尊重や男女共同参画社会の意識の向上。
- ・自主性、主体性の伸張。また、教育の流れや社会的背景の理解。
- ・優先順位や計画に基づいた職務遂行。
- ・組織で動くことや組織を活用するマネジメント力。

<保護者・地域の強み>

- 保護者の授業参観の出席率が高い。奉仕作業や資源回収等に協力的である。
- 地域も学校に対して大変協力的であり、園芸ボランティアや草刈りなどの活動を率先して行ってくれる。
- 子どもたちに関心が高く、温かなまなざしで見守ってくれる。
- 地域行事や健全育成への取り組みが熱心である。

<保護者・地域の課題>

- ・特別な支援や個別の支援に抵抗感をもつために、支援級への入級を嫌がる保護者がいる。

2 学校経営の基本構想

日本の教育

「日本国憲法」と「教育基本法」の理念。

「新学習指導要領」 2018～2020年…先行実施、2021年…前面実施

《改定のポイント》

- ・学校が社会と連携・協働する「社会に開かれた教育課程」
- ・学習指導要領が「学びの地図」～「何を教えるか」から「何ができるようになるか」へ
- ・「育成を目指す資質・能力」～
「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」
- ・「カリキュラム・マネジメント」 教科横断的な視点、子供や地域の現状にあわせて改善し続けること、外部の資源を効果的に活用すること、の3つの側面。

静岡県の教育

「有徳の人づくり」生きる力

菊川市の教育

「確かな学力と思いやりに満ちた学校」づくり

確かな知性・豊かな感性・健やかな心身の育成

確かな学力・目に見える学力・ICT教育の推進

☆ 目指す学校像

○子どもと職員の笑顔があふれる学校

- ・「できた、わかった」学びの実感を積み重ねる授業 授業が分かる → 85%
- ・憧れるリーダー、手本となる上級生がいる学校 学校が楽しい → 90%
- ・明るいあいさつ、心から「ありがとう」、ふわふわ言葉がたっぷりの学校
- ・いじめのない学級、学校、不登校0
- ・学習することが、生活することが楽しい仲間がいる学級・学校
- ・生徒（職員）の伸びや成長を見える形にし、発信しつづける学校

○保護者や地域から信頼される学校

信頼できる先生 → 85%

- ・当たり前のことが当たり前に見える（3ゼロ+2、電話や接客対応なども）
- ・教育相談の充実（保護者や生徒の不安に寄り添う）
- ・生徒の生命・安全・成長を第一に（危機管理意識の確立）
- ・学校での取組を情報発信 「つたえる・つながる・つくりあげる」
- ・地域の教育力を学校へ

○「チーム 東中」 組織が機能する学校

- ・PDCAサイクルの確立と教育活動やその成果の見える化
- ・リーダーシップとフォロワーシップのバランス、協働体制の構築。
- ・全職員で共通理解、共通実践、組織で対応
- ・組織の一員として、主体的に動き出す

☆ 校訓

躍 動

☆ 重点目標

共 に 創 る

3 経営の重点と具体施策

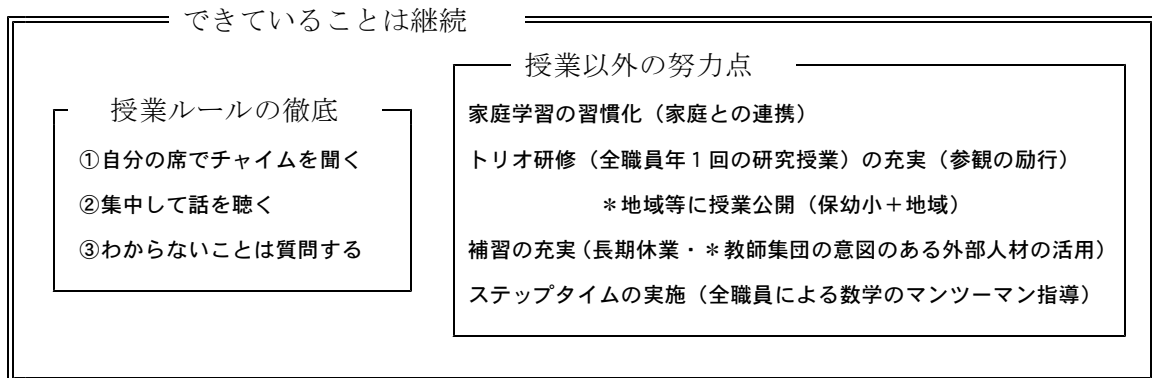
**生徒の努力をタイムリーに返す → やる気と学力向上
あたりまえの行動を認め、感化させることの連続で東中の校風を高める
技術にこだわる → 「何ができるようになったか」**

(1) 「授業改善」…ゴールを明確にして生徒の思考の流れを大切にした授業

生徒主体の「何ができるようになったか」にこだわる授業 道徳の授業の研究推進

- ・「何ができるようになったか（ゴール）」を明確にした授業 …「押さえる」⇒ 焦点化
- ・「学び合い（対話的）」の推進 …「仕掛ける」⇒ 「深い学び」 焦点化・共有化
- ・「授業の振り返り」の工夫のある授業 …「確かめる」⇒ 菊川型の授業
- ・「ICT（ipad）の活用した授業」の推進⇒視覚化 共有化（わかりやすくみせるために）

学ぶ意欲と確かな学力の育成（100点以下を減らせ！）



(2) **健全な心身の育成(人間尊重の精神 どの生徒もかけがえのない一人 男女共同参画社会)**

- ・自尊感情の育成（生徒の成就感を育てる 自分を好きになる 褒める）
- ・どの生徒も意味ある存在であると自覚できる学級経営（親身と毅然）

教師の心構え 気配り（こころ配り）→目配り→手配り
分掌・生徒指導 気をかけ→目をかけ→声かけ

- ・生徒個々が認められ、居場所のある学級づくり コミュニケーション活動の実施
- ・班長会を基盤とした学級集団づくり
- ・不登校生徒、問題行動を起こす生徒も、その子なりの成長を認める指導
- ・QUアンケート、教育相談などを実施し、実態をつかんだ指導の徹底

不登校・不登校傾向の生徒を半減させる

- ・情報モラルの指導（ICT静岡）の活用 <有料>
- ・安全計画に基づいた安心・安全な学校づくり（計画的な防災意識の高揚）
- ・登下校の安全を意識した指導（登下校の指導充実）
- ・生徒会活動の活性化<見える化>

(3) **豊かな感性を育てる教育環境(伝統の継承)**

<UD（ユニバーサルデザイン）を意識した環境創り>

- ・学校の誇り「ボランティア」「信頼の傘」「あいさつ」「清掃」づくり
- ・地域の人材活用（園芸、図書、学習ボランティア）花園・読み聞かせ等
- ・生徒の作品を中心とした学校芸術館化
- ・HP、モニターテレビ、学校・学年・学級だよりによる情報発信

(4) **職員の健全な労働環境に配慮し、3ゼロ+2の徹底（信頼される人に！）**

- ・ 定時退庁日を実施
- ・ 問題行動等の対応は**即時・組織**で行う
- ・ 教職員研修（不祥事根絶に向けた）の実施

4 目標数値

(1)

- ・ **授業がわかる** **85%**
- ・ 授業はチャイム席でスタートできた 95%
- ・ 家庭学習（30分×2教科）の取り組みができた 80%
- ・ 定期テストの100点以下の生徒の割合 20%以下

(2)

- ・ **学校が楽しい** **90%**
- ・ 班の一員として仲間と協力することができた 90%
- ・ 生徒会活動(委員会、行事)を通して高め合う集団となった 80%
- ・ **学校に信頼できる先生がいる** **85%**

(3)

- ・ 生徒や地域の人などに自らさわやかなあいさつができた 90%
- ・ 清掃に黙働で一生懸命取り組むことができた 95%
- ・ 生活の決まりを守って生活できた 95%

(4)

- ・ 週1回の定時退庁実施 50%
- ・ 3ゼロ+2のための研修の実施 ゼロ

※ゴシックは市教育委員会の数値目標